

の資金となし、國家財政の去窮を期す。此の點に於て、國家の急務を期す。今回政府の増稅案を見るに及び吾が黨の期待に某大臣に進言する所ありたり然るに今回政府の増稅案を見るに及び吾が黨の期待に反して何等進言に傾聽を拂はず徒らに不合理不徹底なる増稅案を立て國家を誤らんとするものあるにより默視するに忍びず茲に吾黨の立案を公表し其の實行を期せんとするものなり。

昭和九年十一月八日

大日本生産黨

限定酒造專賣法並ニ増稅案

本案ハ限定酒造專賣法ヲ設ケ限外酒類ニ對シテハ現課稅額ノ倍額ヲ増徴シ約壹億七千七百圓ノ增收入ヲ得之ヲ以テ國家財源ノ捻出ニ充當セントスルモノナリ

限定酒造專賣トスベキモノハ勞働大衆ノ飲用ニ屬スルモノニシテ之等ノ酒類ニ對シ増稅スル時ハ保健衛生上甚ダシキ害毒ヲ生ズルヲ以テ之レ等ノ飲用酒ヲ國營トナシ其ノ國營トスベキモノハ理研酒ヲ用キテ專賣スルニ於テハ現在壹圓八拾錢ニ賣レル理研酒ヲ壹圓ニ低下シテ販賣スルモ尙ホ收益スル所少々ナラザルモノアリ増稅スベキ酒類ハ米穀ヲ原料トセル精酒、洋酒、麥酒、其他限定以外ノ酒ニシテ之等ノ酒類ハ國營酒價ノ影響ヲ受ケ需用減少スルハ當然ノ事ナルヲ以テ釀造ノ減石量ニ對シ國家ハ補償法ヲ制定シ公債ヲ發行シテ酒造家ニ補償スベキナリ

酒造家ノ減石量ヲ百萬石ト假定シ現在酒造ノ利益ハ一石五十圓ナリト見積リ其ノ利益五ヶ年間ヲ四分利公債ヲ以テ一時ニ交附スルコト、シ具體的方法トシテ國家ハ酒造家ガ最近三ヶ年間ノ平均一ヶ年釀造萬ニ對シ二割五分ノ生産制限ヲ命ジ其ノ補償トシテ二億五千萬圓ノ公債ヲ交付スルナリ國營專賣酒及ビ増稅酒ニヨリテ收得セラル、初年度增收入豫算ハ左ノ如シ

國營酒		原價(營業費ヲ含ム)		賣價(一升壹圓)		利益		增收(百五十萬石トシテ)	
增稅酒	增稅(平均石四拾圓トシテ)	石	參拾圓	石	拾圓	石	七拾圓	壹億五百萬圓	壹億五千萬圓
	舊稅(四百萬石平均石四拾圓)								
	新稅(三百萬石平均石八拾圓)								
麥酒其ノ他ノ稅額ヲ倍額トス	差引增收增加								八千萬圓
	增收增加								千貳百萬圓
	總增收增加額								壹億九千七百萬圓
補償公債返済法	公債額								二億五千萬圓
	利息年四分								壹千萬圓
	償却二十五年								貳千萬圓
	支出計								貳千萬圓
	完全增加財源即チ國營增稅ノ兩增收ヨリ補償公債返却金ヲ差引タルモノナリ								壹億七千七百萬圓
	增加純增收金額								壹億七千七百萬圓

理研酒

水、酒精、香料ノ合成酒ヲ全キ研究ノ結果ヲ機械的ニ實行シテ天候其他ニ支配サレズ四季何時ニテモ否毎日何處ニテモ製造シ得ルモノナラズ腐敗ノ憂ナク酒精含有量品種ノ區別ニ對シテ強弱適當且ツ正確ニ分別シ得ル特長アリ而モ最モ注意スベキハ恐ルベキ「メチール」ト「イゼン油」等ノ有害物ヲ完全ニ含有セズ絕對ニ衛生的ニシテ原料酒精ハ現在臺灣ニ於テ甘蔗締滓ヨリ製造シ而モ供給過多ノ爲メ生産制限ヲ行ヘル状態ナレバ此ノ酒精ヲ使用スルコト一舉兩得ノ利益ナルニシ

此ノ理研酒ヲ國營トシ勞働大衆用トシテ發賣スルニ於テハ現在ヨリ安價ナル酒ヲ供給シ社會政策ノ本旨ニ適スルノミナラズ「メチール」ニ因ル死亡、失明等ヲ絕對ニ防止シ大衆ノ保健上有益ナルモノアリ

限外釀造酒

全般的酒專賣ハ理論トシテ傾聽スベキモ實行上ニ於テ專賣當初民業買收ノ莫大ナル公債ヲ發行セザル可ラザルト買收又ハ補償價格ノ決定至難ニシテ公正適當ナル價格ヲ定メ難キ事情アリ況ンヤ日本酒ハ製造中或ハ貯藏中腐敗スルコトアリ之レガ爲メ國營トシテ經營スルハ危険ナリトセザルベカラズ加之ノミナラズ精酒ノ製造ハ普通冬期ニ限ラレ居ルヲ以テ人員使用上不便不利ヲ伴ヒ又買收セル工場ノ不用トナルアリ或ハ收支相償ハザル工場ヲ生ズルアリテ國家ノ財源トシテハ安全ナルモノトナスベカラズ、又國家財政ノ上ヨリ見テ全般ノ酒類專賣ヲ實行スルトキハ從來釀造家酒商ノ納メタリシ所得稅營業收益稅等ヲ失ヒ酒稅以外ノ收入減ヲ生ジ買收補償金トシテ巨額ノ公債ヲ發行スル爲メ他ノ公、社債ノ發行ニ影響シ經濟界ニ不利ナル現象ヲ來タスベキ恐レアルヲ以テ全般的酒專賣ハ議論トシテ可ナル處アルモ實行困難ナリ故ニ吾人ハ限定の酒造專賣法ヲ立案シ限外酒ノ増稅ヲ主張スル所以デアル而シテ本案ノ一躍倍額増稅ハ聊カ酷ニ過グルノ觀アルモ非常時ニハ自ラ之ニ應ズルノ非常手段ナカル可カラズ我ガ當局ニシテ斷ジテ行ハハ以テ非常時ヲ克服スルノ一助トナルベキヲ疑ハズ

以上